

日本一のブランド米をめざして

つや姫だより



第1号

平成31年4月15日

庄内総合支庁農業技術普及課

早めの準備で生育を安定させよう！

「つや姫」はデビュー10周年を迎えました。良食味を前提に安定的な収量が確保されるよう、初心に返り、今一度、基本技術を点検しましょう。

<収量・品質・食味安定へのポイント>

○田植えは5月10日前後

遅くとも15日までに完了しよう！

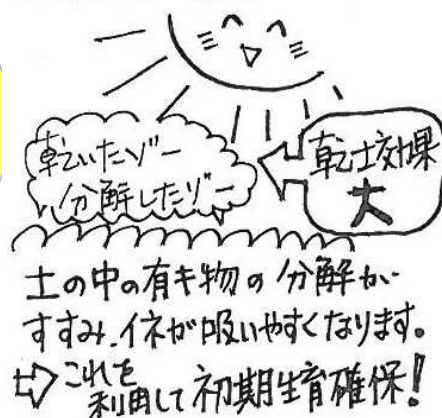
健苗を育成し、植付け株数・本数、深さにも注意！

○早めの耕起で乾土効果を高めよう！

○適正な有機物施用量・基肥施用量を再点検！

○初期生育を確保し

目指すは6月20日の莖数460本/m²！



1. ほ場の排水対策・早期の耕起

・今後10日間の天気予報では、比較的晴れの日が多くなっています。

早めに耕起を行い、土塊を乾燥させることで乾土効果を高め、初期生育の確保に努めましょう。

・昨年秋耕を行った圃場や枕地に旋回跡がある圃場では、排水が悪くなっている場合があります。圃場がすみやかに乾き、早めの耕起に入れるように、**排水状況を確認し、水尻をつなぐなど対策を講じましょう。**

2. 土づくり

・土壌pHが低いと土壌中のケイ酸も低い傾向にあります。土壌pH5.5未満の圃場では、土づくり肥料を施用しましょう。

・基本の施用量は ケイカルで120kg/10a、ようりん30kg/10aです。

・平成30年に減収程度が高かった地域では、**ケイカル等で土づくりを実施した圃場で、無施用圃場に比べ、平均して5%程度の増収効果**が見られました。

・食味の良い米に仕上げるには稔りが良く、粒張りが良いことが基本です。そのためには、根の活力維持につながるケイ酸分の入った土づくり肥料の施用が基本です。



3. 基肥

良食味・高品質・安定生産のためには、初期生育確保を重視した、後半に窒素を持ち越さない施肥量にすることが重要です。次表の基肥窒素施用量を守りましょう。

基肥(全層)(成分 kg/10a)		
窒素	リン酸	カリウム
3~4	3~4	3~4

表1 基肥の標準施用量
(つや姫栽培マニュアルより)

- ・地力が高いほ場では窒素成分で 3kg/10a、中庸なほ場では 4kg/10a とします。
- ・地力が低いほ場では、窒素成分で 1kg/10a を上限に増量して対応します。

4. 早めの田植えで収量確保

田植え時期と平均収量 (kg/10a)				
田植日	~5月10日	5月11~15日	5月16~20日	5月21日~
H29	545	541	519	495
H30	488	484	475	461

表2
鶴岡田川地域「つや姫」の移植時期と平均収量 (つや姫チェックリスト解析結果より)

H29~30 の「つや姫」栽培チェックリスト解析結果よると、田植え時期が遅くなるほど減収しています。

5月10日前後(遅くとも5月15日)の好天の日に田植えを行うとともに、茎数を確保するため、植え付けする株数、本数に注意しましょう。また、**植付け深は3cmを目安**に、深過ぎないようにしましょう。

○目標茎数を確保するため、m²当たり21~23株、1株4~5本植え。

また、次の生育指標を目標に健康な苗に仕上げましょう。

表3 苗の生育指標 (つや姫栽培マニュアルより)

苗種	移植適期葉数(葉)	育苗日数(日)	播種量(乾籾g/箱)	苗丈(cm)	乾物重(g/100本)	第1葉鞘高長(cm)	必要苗箱数(箱/10a)
稚苗	2.5	20~25	150~180	12~13	1.3g以上	3.5以内	23~24
中苗	3.5	30~35	80~120	14~15	2.0g以上	3.0以内	30~31

5. 堆肥

・堆肥や鶏ふんを施用した場合、**肥効分を基肥から減肥**します。(地力が特に高い圃場で、堆肥は不要)

表4 堆肥施用にともなう基肥の減肥例 (つや姫栽培マニュアルより)

堆肥の種類	牛ふん堆肥		豚ふん堆肥		鶏ふん堆肥 (発酵鶏ふん、乾燥鶏ふん含む)
	20未満	20以上	15未満	15以上	
C/N比	20未満	20以上	15未満	15以上	10未満
窒素肥効率	20%	10%	30%	20%	65%
堆肥の量上限	500kg /10a		300kg /10a		50kg /10a
堆肥を施用した場合の減肥量(窒素成分)	1kg/10a	0.5kg/10a	1kg/10a	0.5kg/10a	1kg /10a

<春季農作業事故防止運動強化期間 4/10~6/10>

STOP! 農作業事故 無理せずゆとりある作業を心がけましょう。

